

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名

Signリーフィングサイズ クイック

会社名

株式会社カナイ

住所

京都府京都市南区吉祥院井ノ口町26番3

担当部門

EC事業部

担当者

秋田成敏

メールアドレス

info@protoolshop.net

緊急連絡先

075-691-5066

推奨用途及び使用上の制限

接着剤・塗料

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

: 引火性液体

区分2

健康に対する有害性

: 急性毒性(経口)

区分外

: 急性毒性(経皮)

区分外

: 急性毒性(吸入:ガス)

区分外

: 急性毒性(吸入:蒸気)

: 急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)

分類できない

: 皮膚刺激/腐食性

区分3

: 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分2

: 呼吸器感作性(固体/液体)

分類できない

: 呼吸器感作性(気体)

分類できない

: 皮膚感作性

区分1

: 生殖細胞変異原性

区分2

: 発がん性

区分2

: 生殖毒性

区分2

: 授乳に対する、または授乳を介した

影響に関する追加区分

: 特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)

区分1(臍臓、神経、肝、血液、腎)

: 特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)

区分1(呼吸器系、神経、腎、肝、末梢神経系)

区分3(麻酔作用)

: 吸引性呼吸器有害性

分類できない

環境に対する有害性

: 水生環境有害性(急性)

分類できない

: 水生環境有害性(慢性)

分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: ・引火性の高い液体及び蒸気

注意書き

- ・飲み込むと有害
- ・軽度の皮膚刺激
- ・重篤な眼への刺激・強い眼刺激
- ・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- ・遺伝子疾患の恐れを疑い
- ・発がん性の恐れを疑い
- ・生殖能又は胎児への悪影響の恐れ
- ・臓器(脾臓、神経、肝、呼吸器)の障害
- ・臓器(肺)の障害の恐れ
- ・長期又は反復暴露による臓器(神経、腎、肝)の障害

： 取扱い又は使用に際し、製品安全データシート(MSDS)を必ずお読み下さい。

【予防策】

- ・容器を密閉しておく。
- ・熱/火花/裸火/高温体のような着火源から遠ざけること。一禁煙。
- ・適切な保護手袋/保護眼鏡/保護マスク/保護面/保護衣を着用すること。
- ・容器及び受器を設置すること。
- ・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火災を発生しない工具を使用すること。
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・屋外又は換気のよい場所のみで使用すること。
- ・粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸引しないこと。
- ・環境への放出を避けること。

【対応】

- ・火災の場合には、適切な消火方法をとること。
- ・飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次ぎにコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激がつづく場合は医師の診断/手当てを受けること。
- ・皮膚(又は毛)に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。気分が悪い場合は医師連絡すること。皮膚刺激が生じた場合、医師に診断/手当てを受けること。
- ・衣服に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

- ・容器を密閉して、涼しい所/換気のよい場所に施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合溶剤

成分及び含有量

成分名	含有量%	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.
酢酸エチル	80.0-90.0	(2)-726	141-78-6
シクロヘキサノン	5.0-15.0	(3)-2376	108-94-1
アクリル・酢酸ビニル共重合体	<10.0	(6)-362	35239-19-1

4. 応急処置

吸入した場合 : 新鮮な空気の場合に移動させ、安静・保温に努め必要に応じて医師の診断を受ける。

- 皮膚に付着した場合** : 多量の水を用いて洗い流し、炎症を生じた時は、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 目に入った場合** : 直ちに清浄な水で15分間以上洗浄した後、必要に応じて眼科医の診断を受ける。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
- 飲み込んだ場合** : 安静にして直ちに医師の診断を受ける。口をすすぐこと。
- 予想される急性症状及び遅発性症状** : 吸入により呼吸器への刺激、咳、めまい、咽頭痛、意識喪失。
皮膚に対して刺激、脱脂、発赤。
眼に対して刺激、発赤。
飲み込みにより胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。
- 最も重要な徴候及び症状** :
- 応急処置をする者の保護** : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
- 医師に対する特別注意事項** : 情報なし。

5. 火災時の処置

- 消火剤** : 小火災; 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤
大火災; 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤** : 棒状注水
- 火災時の特定危険有害性** : 火災によって刺激性、毒性、または腐食性のガスを発生するおそれがある。
極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
引火性液体及び蒸気
- 特有の消火方法** : 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
大規模火災には、泡消火器を用いて空気を遮断する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行なう者の保護** : 消火作業は、風上から行き保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
特に有毒なガスの吸入を避ける。

6. 漏出時の処置

- 人体に対する注意事項** : 作業には、適切な保護具(8、暴露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、
保護具及び緊急時措置 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 環境に対する注意事項** : 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- 回収、中和** : こぼれた場合は液の拡散を防止し流出物をすくい取るか、適当な吸収剤を使用して密閉できる空容器に回収する。(吸収剤; おがくず、土、砂、ウエス等)
- 封じ込め及び浄化方法と機材** : 危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取り扱う時に用いる全ての設備は接地する。
- 二次災害の防止策** : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い**
- 技術的対策** : 『8、暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
静電気対策のため、装置、機器等の接地を確実にこなう。
作業服、作業靴は、導電性のものを用いる。
- 局所排気・全体廃棄** : 『8、暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体排気を行なう。
- 安全取扱い注意事項** : 取扱い場所は、火気厳禁とし、高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
換気の良いところで取扱い、使用後は容器を必ず密閉する。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を使用する。
漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照 (4/6)

保管

技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、且つ、梁を不燃材料で作ること。
保管場所の床は危険物が浸透しない構造とするとともに適切な傾斜をつけ、且つ、適切な溜め枘を設けること。

保管条件 : 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。
容器は直射日光を避け、冷所、換気の良い場所に容器を密閉し、施錠して保管する。
酸化剤から離して保管する。

混触危険物質 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

容器包装材料 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
軽金属とその合金、ゴム、合成樹脂を侵すので使用を避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

組成物質の管理濃度
及び許容濃度

物質名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV)
酢酸エチル	400ppm	400ppm	400ppm
シクロヘキサノン	25ppm	25ppm	25ppm

設備対策 : 取扱い設備は防爆型を使用する。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
密閉された装置、機器または局所排気をしなければ取り扱ってはならない。
取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設置すること。

保護具

呼吸器用の保護具 : 送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器、有機ガス用防毒マスク

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

目の保護具 : 側板付保護眼鏡(必要によりゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具 : 保護長靴、保護作業服

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期または使用の都度行なう。

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 透明液体
臭い : エステル臭
pH : 該当せず
融点/凝固点 : データなし
沸点 : 77.2℃(主成分の値)
引火点 : -4℃
発火点 : 427℃(主成分の値)
爆発範囲 : データなし
蒸気圧 : データなし
蒸気密度(空気=1) : データなし
比重(密度) : データなし
溶解度 : 水に不溶
オクタノール/水分配係数 : データなし
分解温度 : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 常温・常圧で安定。
加熱すると激しく燃焼、爆発する事がある。
紫外線、塩基、酸の影響下で分解する。

危険有害反応性可能性 : 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

塩基性物質、還元剤と反応する。

水と接触すると引火性が極めて高いガスを放出する。

避けるべき条件

: 加熱。
静電気放電。

混触危険物質

: 紫外線、強アルカリ、還元剤、強酸化剤、水との接触回避。

危険有害な分解生成物

: 加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、窒素化合物。

11.有害性情報

成分の健康有害性情報

成分名	急性毒性			
	経口毒性	(mg/kg)	経皮毒性	(mg/kg)
酢酸エチル	区分外		区分外	
シクロヘキサノン	区分4	1544	区分3	947

成分名	急性毒性			
	吸入:気体	(ppmv)	吸入:蒸気	(ppm)
酢酸エチル	分類対象外		区分外	
シクロヘキサノン	分類対象外		区分3	24500

成分名	急性毒性		皮膚腐食性/刺激性
	吸入:粉塵等	(ppm)	区分
酢酸エチル	分類できない		区分外
シクロヘキサノン	区分外		区分2

成分名	眼に対する重篤な損傷性	呼吸器感作性・皮膚感作性
		呼吸器感作性物質
酢酸エチル	区分2B	分類できない
シクロヘキサノン	区分2A	分類できない

成分名	呼吸器感作性・皮膚感作性	生殖細胞変異原性
	皮膚感作性物質	
酢酸エチル	区分外	区分外
シクロヘキサノン	区分外	区分2

成分名	発がん性	生殖毒性
酢酸エチル	分類できない	分類できない
シクロヘキサノン	区分2	区分2

成分名	特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)
酢酸エチル	区分1(呼吸器系)区分3(麻酔)
シクロヘキサノン	区分1(肝臓、膵臓、中枢神経系)区分2(肺)

成分名	特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)
酢酸エチル	分類できない
シクロヘキサノン	区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系)

成分名	吸引性呼吸器	水生環境	水生環境
	有害性	有害性(急性)	有害性(慢性)
酢酸エチル	分類できない	区分外	区分外

12.環境影響情報

生殖毒性	: 混合物としてのデータなし
残留性/分解性	: 混合物としてのデータなし
生体蓄積性	: 混合物としてのデータなし
土壤中の移動性	: 混合物としてのデータなし

13.廃棄上の注意

内容物、容器を廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
 容器、機械装置等を洗淨した廃液等を地面や排水溝へそのまま流さないこと。
 廃水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行なうか、委託する。

14.輸送上の注意

国際規制

国連番号	: 1263
国連輸送名	: 塗料 (PAINT)
国連分類	: クラス3 (引火性液体)
容器等級	: 容器等級 II

国内規制

国連番号	: 1263
指針番号	: 128
陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法、毒劇法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	: 航空法に定められている運送方法に従う。
注意事項	: 7、取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。 運搬に際して、容器・包装に漏れの無いことを確かめ、転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

15.適用法令

労働安全衛生法	: 法第57条の2(令18条の2)名称を通知すべき有害物 (酢酸エチル、シクロヘキサノン第230号) 法第57条の2(令18条)名称等を表示すべき有害物 (酢酸エチル、シクロヘキサノン) 令別表第一の4危険物 ; 引性の物 有機溶剤中毒予防規則 ; 第二種有機溶剤
消防法	: 危険物第四類 第一石油類 危険等級II
船舶安全法	: 引火性液体
航空法	: 引火性液体
PRTR法	: 該当なし

16.その他の情報

参考文献

- 1) 社団法人 日本化学工業協会 : 製品安全データシートの作成指針(改訂2版)
- 2) 社団法人 日本塗料工業会 : モデルMSDS・モデルラベル事例集[混合物(塗料用)]
- 3) 安全衛生情報センター : GHSモデルMSDS情報
- 4) 中央労働災害防止協会 : GHS対応による混合物(化学物質)のMSDS作成手法の研修テキスト(改訂版)